

京都支部 兵庫支部 合同支部行事
＜楽しく学べるふろしき講座＞開催のご報告

京都支部 高垣浩美 上山幸代



11月30日(土) 10:30-12:00 今出川キャンパス 明德館にて
山田繊維株式会社 SHOP むす美の山田悦子氏をお迎えし、ふろしきワークショップを開催いたしました。

当日は冬の始まりを感じる季節の中、お天気にも恵まれ、両支部より100名近い保護者にご参加いただきました。参加してくださった皆様、ありがとうございました。

ワークショップでは、ふろしきの特徴、歴史、名前の由来について教えていただきました。

ふろしきを通して、「最小限のものを最大限に生かす」暮らしを営んできた日本人の美意識・心・先人の知恵に触れることができました。

ペアワークでは、エコバック/ひざかけ/ショール/トートバックの結び方を教わりながら「素敵！すごい！意外と簡単！」と様変わりするふろしきに歓喜の聲が上がっていました。



【環境問題への効果】

環境省によりますと、現在日本で年間使われているレジ袋は約300億枚で、ごみとして出される量は60万トンになるそうです。このためレジ袋の使用をやめてふろしきへと変換されるようになると、二酸化炭素とごみの削減につながり、地球温暖化防止に貢献することができると思います。

【ふろしきの特徴】

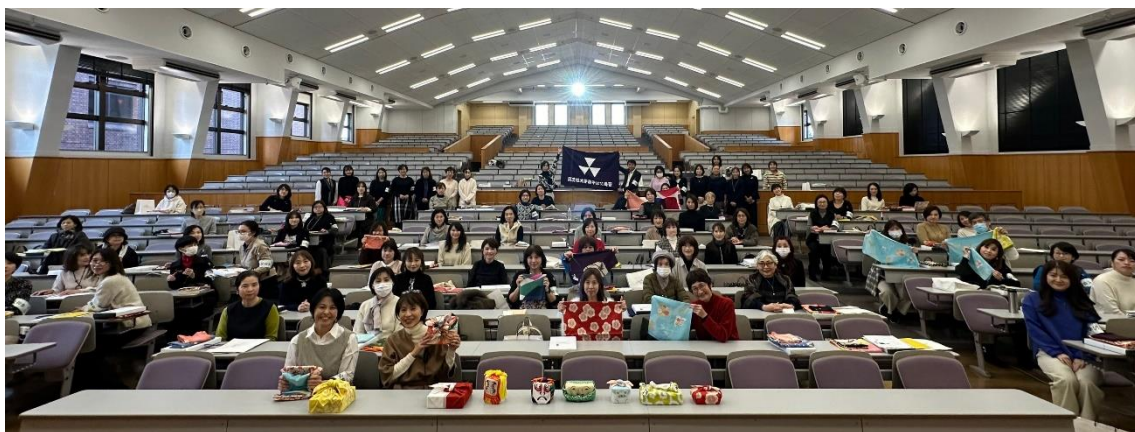
- ・ 何度も繰り返し使える（サステナブル）
- ・ どんな形のものでも包める
- ・ 多用途に使える
（包む・敷く・羽織る・運ぶ等）
- ・ たためばコンパクト・省スペースに



【ふろしきの歴史と名前の由来】

1300 年前から「包み布」として使用され、正倉院にも保管されているそうです。室町時代には風呂は蒸し風呂のようなものであったため、「むしろ」「すのこ」「布」などが床に敷かれていたそうです。足利義光が大湯殿を建てた際に他社の衣服と間違えないように家紋を付けた布に脱いだ衣服を包み、湯上りに際してこの布の上で装束を整えたという記録があるそうです。このとき用いられた敷布がのちに「風呂敷」と呼ばれるようになりました。

今回参加記念品として撥水加工ふろしき aquadrop をお持ち帰りいただきました。鞆にいれておくと急な雨や旅行時、災害時にも大変便利なアイテムです。折り畳むとコンパクトで水や汚れにも強いのでエコバッグはもちろん、折り畳み傘フォルダー、レインカバー、防災グッズとして様々な場面でご活用いただけます。皆様の日常に取り入れお役立ていただければ幸いです。



<最後に>冒頭「本日のワークショップを通じて、歴史ある同志社大学商学部で学び次世代を担う子どもたちにも、ふろしきを通して日本の知恵と強みを伝えていただきたい」とおっしゃっていた山田氏の思いをぜひご家庭でもお話いただけましたら幸いです。今後とも京都支部、兵庫支部、父母会活動にご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

<文責：京都支部長 野口美代子・兵庫支部長 久保田典子>